

令和7年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府民の森北・中河内地区	指定管理者：住友林業緑化株式会社	指定期間：令和4年4月1日～令和14年3月31日	所管課：環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
--------------------	------------------	--------------------------	-------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の 自己評価		施設所管課の 評価		評価委員会の 指摘・提言	
		評価 S～C	評価 S～C				
I 提案の 履行 状況に 関する 項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	<p>施設の設置目的に沿った管理運営ができたか。</p> <p>①安心・安全で快適な利用の確保 ②自然に親しむ行事等を通じた自然教育の実践 ③良好な森林景観、生物の多様性の確保に向けた植生の保育管理 ④府民との協働を推進</p>	<p>電力等の光熱費や資材、人件費等の高騰による物価上昇（変動）に対して、継続的に管理運営業務（植栽管理の面積縮小や実施回数の縮小、作業の一本化など）を継続的に見直し、コストダウンに努めているが、今年度も予想以上のコスト上昇で、現地での対応も限界にきていることから、府との協議等で引き続き相談したいと考えている。今年度においても上記理由により、運営経費が大きく圧迫され、これまで通りの管理運営水準等の維持も厳しい状況にある。</p> <p>①全管理園地を対象に作成した管理カルテ台帳をもとに、大阪府と適宜共有しながら、危険度の高いものから優先して改修等を実施した。 ②各施設にてワークショップ等を多数開催した。（イベント資料参照） ③管理カルテ台帳と合わせて、日常の巡視により、剪定、危険木撤去、景観伐採を実施した。昨年度より、くろんど園地内においては、大阪府のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のキンランの保護活動の取組みを交野自然の杜と協業し、継続して実施した。昨年は果実が少なく種子をほとんど取ることができなかつたため、今年度は果実を増加させ、種子を多く取る目的でキンランの人工授粉の活動を行った。その他にも、NPO 法人日本パークレンジャー協会と園地内ネイチャーガイド適用に向けての準備および園地内環境調査として、オサムシ、ゴミムシ、シデムシ、マイマイカブリ、コオロギなどを対象生物として、トラップによる調査を実施した。今後の活用に向け、引き続きデータの収集に努める。 ④NPO 法人日本パークレンジャー協会と共に園地の森林整備を実施し、継続した森の循環や整備に取り組むことができた。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	<p>（全体に対する評価） 利用者のセグメントを設定した上で、プロモーション手法の検討やイベントを開催してはどうか。 また、インバウンドに応じたリスク管理が必要ではないか。</p>
	(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	<p>平等利用に努めたか。</p> <p>①誰もが安心して利用できる公園運営に係る多様な媒体を活用した情報発信（音声ガイドシステムの充実）、オンライン予約の導入 ②利用者の意見を反映した公園運営 ③持続可能性を重視した公園運営 ④職員の研修、ボランティアスタッフの育成 ⑤歩行サポート事業（ウォーキングボール、電動カート、グリーンスローモビリティ等） ⑥高齢者や障がい者施設等への情報提供</p>	<p>①HP、公式LINE、各SNSを通しての情報配信を積極的に実施し、Instagram フォロワー数が3,260人（昨年度末時点2,070人）と大幅に増えており、認知が進んでいる。また、ほしだ園地に特化したアカウントも立ち上げ、情報発信の強化に取り組んだ。イベント等の予約についてはネット受付を活用した。音声ガイドシステムについては、大きな課題である電波の確保のため、Wi-Fi 環境の整備とともに導入場所の検討を継続して行ってきたが、その他の課題もあり、今後の展開は検討中。 ②紙によるアンケートだけでなく、LINE によるアンケートも通年で実施し、利用者の要望等を随時把握した。12月末にはアンケート内容に対する対応結果をHP上で公開。今年度は、ほしだ園地の駐車場24時間化を開始。他に長年、要望の多かったむろいけ園地の駐車マスの拡大は、大阪府の協力を得て車間枠を見直し、白線を引き直していただいたことで、快適に乗り降りできるスペースが確保できた。 ③危険木等の伐採木については薪にして、ほしだ園地に設置した薪ストーブに利用するなど自然循環する取組を進めていく予定。また、土留めやフォトスタンド、スタンプラリースタンドとしても再利用を進めた。 ④園地管理運営に必要なまたは役立つ資格取得を積極的に行った。また、住友林業緑化における安全管理部門による安全講習会に参加した。⇒ 振動工具取扱作業員2名 丸のこ等取扱作業員1名 フルハーネス型墜落防止器具1名 ⑤なるかわ園地にて、電動シニアカート（1人乗り）、電動キックボード（1人乗り）の運用（有料）を継続的に実施し、11月末時点で110人が利用した。 ⑥車いすの貸出し、障がい者施設利用者へは電話での対応並びに来訪時に対応した。高齢者へは転倒防止や装備品に関する注意喚起情報を継続して提供した。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	<p>音声ガイドシステム継続・代替手法を検討し、危険回避情報による安心安全の確保、多言語化対応をすること。</p>

	(3)安全・安心に利用できる府民の森とするための管理の具体的方策	<p>施設の安全管理について、トラブルの未然防止や、発生した際の処理方針、今後の管理への反映がなされたか。</p> <p>①予防保全による危機事象未然防止対策の実施</p> <p>②事件・事故等危機事象の備え</p> <p>③緊急時の即応体制対策</p> <p>④災害時の適切な対応と迅速な応急処置</p>	<p>①現地職員による毎日の巡回により危険箇所、危険事象を確認した場合は、全園地へ共有するとともに、大阪府・中部事務所と協議のうえで適切に対応するとともに、施設掲示、HP、各 SNS 等にて利用者への周知を徹底した。また、上記にて得た情報は随時管理カルテ台帳へ反映し常にアップデートを継続した。</p> <p>②緊急時連絡網を整備し定期的な運用の確認を実施した。また、各園地責任者内での LINE による緊急事象への連絡、対応体制を構築して運営に当たった。</p> <p>③大阪府、中部事務所、管理者による LINE を活用した緊急連絡体制を構築し運用した。また、自然災害における現地対応マニュアルを整備し大阪府と共有、継続して改善検討を行った。</p> <p>④事件・事故・災害発生時は LINE による速報とあわせて、必要に応じて現地職員が関係機関と連携して初期対応に当たった。具体的な内容等を確認後に所定書式にて大阪府・中部事務所へ報告書を提出するなど、計画通り実施した。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	
I 提 案 の 履 行 状 況 に 関 す る 項 目	(4)施設の維持管理の内容、的確性・効果	<p>施設の維持管理、景観保全について、良好な管理がなされたか。</p> <p>①予防保全(構造物の^{カケ}による点検、巡視、補修)の実施</p> <p>②精密点検(遊具、電気設備、防火設備、給水設備、排水設備)と修繕の実施</p> <p>③植生管理(除草、除伐、危険木伐採、清掃等)の実施</p> <p>④景観保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全ゾーン:希少な動植物・昆虫の保全 ・整備ゾーン:自然に親しむ環境の創出(^{カケ}管理) <p>⑤美化清掃活動等の実施</p>	<p>①全管理園地を対象にした管理カルテ台帳を作成し大阪府と適宜共有、危険度別に評価し危険度の高いものから順次改修等を実施した。</p> <p>②各設備等については業務委託による定期点検、法定点検を実施した。遊具については点検表を作成し、点検表に基づく定期巡回を1回/月実施しているが、今年度は都市公園における遊具の法定点検に準じた内容で有資格者による専門的な点検を自主的に実施し、予防保全に取り組んだ。</p> <p>③年間管理計画を作成し、管理計画に基づき植生管理を実施した。</p> <p>④保全ゾーンとして、くろんど園地のキンランの保護活動の取組みを交野自然の杜と協業して昨年より継続して実施した。引き続き保全を優先しながら、活動の過程を記録していく。整備ゾーンとして、管理カルテ台帳、日々の園地内巡視により計画的な整備(下草刈り、枝払い、危険木等の伐採等)を行った。加えて、むろいけ園地の湿生花園の整備も徐々に計画を進めているが、イノシシによる被害の拡大や水量不足など、課題があるため、ステップを踏みながら対策を継続し、府と協議しながら進めていく。</p> <p>⑤日々の巡視活動にあわせて、各園地における設備、施設等の清掃を実施した。また、ゴミ箱等は設置せず引き続き利用者によるゴミの持ち帰りの協力をお願いした。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>②遊具点検結果を踏まえ、府と協議し修繕を実施されたい。</p>	A	
	(5)サービスの向上を図るための具体的手法・効果(隣接する公園等との連携を含む)	<p>利用者の利便性の向上がなされたか。</p> <p>①新規来園者、リピーター増加への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声ガイドシステムを活用した多彩なコンテンツによる利用促進 ・クイズ体験の拡充(ほしだ園地) ・眺望を確保するための伐採や安全・安心を確保した展望スポットの維持管理・整備 <p>②SDGsを意識した取組み</p> <p>③周辺施設(隣接する府営公園等)との連携、各協議会への参画によるサービスの向上</p> <p>④多様な媒体を活用した情報発信</p>	<p>①更なる賑わい創出のため、星のブランコのイルミネーションについて、電飾を増設するなど昨年よりも拡充して開催した。昨年度は10月から3月で4,380人の来場実績だったが、今年度は10月から11月時点で4,758人と昨年を上回る来場者数となり新規来園者の増加に繋がった。クライミングフェスティバルにおいては、誰でも登りたいと思った人が気軽に参加できるワンコイン体験会も併せて初開催し、25名が体験した。</p> <p>なるかわ園地においては、新たな夜景を楽しめる空間を創出するため、眺望を阻害している樹木の伐採を行い、展望スポットの整備に努め、9月にナイトガレージマーケットを開催し、3月にも開催を予定するなど、園地の魅力向上に努めた。</p> <p>②各園地における危険木や密集している樹木帯の継続的な間伐やその作業で発生した間伐材を活用して、薪や園地修繕材として再利用を行い、引き続き、自然の循環に取り組んだ。</p> <p>③枚岡公園や星の里いわふね等の周辺施設とイベント情報の共有や枚岡公園主催のデジタルスタンプラリーへの協力や、地域のお店とのナイトガレージマーケット、星の里いわふねとの合同イベント「プラネタリウムと魔法の森」(間伐材で発生した枝を活用した魔法の杖づくり体験とプラネタリウム鑑賞をセットにしたイベント)を実施。</p> <p>さらに、交野市域(とりわけ私市南エリア)の活性化の取組として、交野おもてなし実行委員会に事務局として参画し、星の里いわふね、大阪公立大学附属植物園、京阪(私市駅)、交野市、大阪府と連携して各種施策を実施した。七ヶ月間と定め各施設のイベントを取りまとめ発信、各施設を周遊するイベントとして7/5~8/24に「謎解きウォークイベント」を開催、7/26の「七夕まつり」では各施設を周遊できるようシャトルバスを運行するなど、各機関が協力し地域の活性化に努めた。12/6、12/7には、「ヒカリノモリ交野イルミネーションラリー」を開催し、各施設と連携しスタンプラリーを実施した。</p> <p>④HP・SNS(X、facebook、Instagram)、イベント広報サイトへの登録、LINE、ポスター、チラシ、大型ディスプレイでの情報発信だけでなく、雑誌・TVなどの取材も積極的に受け、発信に取り組んだ。今期は特にInstagramの活用(※アンバサダー制度を導入)を軸に情報発信を強化した。</p> <p>※アンバサダー制度とは、府民の森が独自に考えたもの(利用料の無償化やグッズの無償提供を行い、イベントの広報をお手伝いいただく制度)</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p> <p>③交野おもてなし実行委員会の取組みは、事務局としてリーダーシップを発揮しながら、継続して努められたい。</p>	A	

I 提 案 の 履 行 状 況 に 関 す る 項 目	<p>(6) 自然体験活動の推進に関する具体的方策</p>	<p>自然体験活動について、具体的な企画が実施されたか。</p> <p>①既存団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人日本パークレンジャー協会等との連携による自然体験活動の実施 <p>②新たな体験イベントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな団体と連携したボランティアリーダーの養成や講師派遣による自然体験事業（キャンプ、ツリークライミング）の実施 	<p>①日本パークレンジャー協会と連携し、年間を通して自然体験型のイベントを多数開催した。</p> <p>②むろいけ園地においては、クラフト体験や生き物観察会、ツリークライミング体験を今年も継続して実施した。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。</p>	A	
	<p>(7) 施設のにぎわいを創造する事項</p>	<p>にぎわい創造に資する自主事業が提案通り実施されたか。</p> <p>①自主事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレッキンググッズ、バーベキュー食材等の販売 ・マルシェ、キッチンカー等のイベント開催 ・養蜂事業によるはちみつの販売やワークショップの開催 ・キャンプ場の利用促進、宿泊利用の開始、体験プログラム開催（くろんど園地） ・夜のにぎわいづくりの定着化、ナイトガレージマーケットの継続、新たな夜間イベント開催（なるかわ園地） <p>にぎわい創造や、確実な施設や設備への投資がなされたか。</p> <p>②にぎわいづくり等に向けた投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声ガイドシステムコンテンツ作成・更新（多言語ガイド、視覚障がい者向け音声ガイド、聴覚障がい者向け振動ガイド） ・Wi-Fi 環境整備 ・電動車の運用事業、運用のための管理道補修 ・園地ごとに保全計画を策定し管理を実施（各園地の植生、生き物調査等） ・駐車場の24時間化（ほしだ園地） ・星のブランコイルミネーションの拡充（ほしだ園地） 	<p>①お土産品、はちみつ製品や関連菓子を販売し、週末や繁忙期はキッチンカーを誘致した。くろんど園地では、9月からPFOS・PFOAの暫定目標値超過により水道利用を停止しているが、少しでも利用者に負担をかけないようBBQ関連商品として、水や紙皿・紙コップ等を準備し必要な方に販売した。</p> <p>養蜂事業について、なるかわ園地は蜂の活動条件が悪く事業を停止しており、巣箱をらくらくセンターハウス付近に移動してワークショップも開催する計画であったが、大阪府と協議し安全性を考慮し中止とした。はちみつ販売は継続して実施した。今後は、ほしだ園地で採蜜を一本化する予定。</p> <p>くろんど園地のキャンプ場の利用促進について、水道利用を停止しているため、利用促進の計画は一旦保留とし、制限がある中、近隣のほしだ園地から手洗い用の水を運搬するなど運営維持に努めた。</p> <p>ほしだ園地では、7月に夜の賑わいイベントとして、ほしのかがやきフェスティバルを開催し、七タイルミネーション（星のブランコイルミネーション）・地元飲食店等の出店や音楽ライブ等を楽しめるナイトマーケットを初めて実施し、約1,000名の来場があった。なるかわ園地でも9月に地元飲食店等の出店や音楽ライブ等を楽しめるナイトガレージマーケットを開催し、約2,000名の来場があった。なるかわ園地では、3月にもイベントを企画しており、継続的に開催することで定着してきている。</p> <p>②音声ガイドシステムは、課題があるため、今後の展開は検討中。代替案としてメタバースといった新たな手法による可能性を模索している。また、指定管理時の事業計画にはなかった、ナイトマーケットの開催や星のブランコのイルミネーションへ投資することにより、にぎわいを創造した。</p> <p>なるかわ園地における電動カート及び電動キックボードの運用は、継続的に実施し、利用者ニーズを踏まえ4月からキックボードを4台増台した。また、足の不自由な方でも園地を楽しんでもらえるように、らくらくセンターハウスからつつじ園までを試験区間として、各種法令を遵守した上で送迎サービスの提供を検討し、来年度に向け大阪府と相談している。</p> <p>NPO 法人日本パークレンジャー協会の協力で生物調査を引き続き実施し、トラップを仕掛け毎月調査を行い大阪府と情報を共有した。今後教育コンテンツとしての活用も検討していく。</p> <p>ほしだ園地の駐車場について、早朝や夜間の利用ニーズがあること、来園時間の分散による渋滞緩和、夜間における魅力づくりに取り組んでいることを背景に、7月から24時間利用可能にした。また、利用者の利便性向上やスムーズな入出庫による渋滞緩和のために、駐車場精算機を従来の発券方式からナンバー読み取り式へ12/6から変更した。</p> <p>星のブランコイルミネーションは、電飾の増設を行うなど昨年よりも拡充した内容で開催した。10/3（金）にプレイベントとして交野市民や関係者約200名を無料招待した。以後、毎週土日祝（～12/28）に開催し、キッチンカーの出店、光るランタン等を販売し、賑わいづくりに取り組んだ。</p> <p>くろんど園地のキャンプ場は駐車場からのアクセスが悪く利用しにくいとの声があるため、近隣施設内において駐車することができるよう、生駒市、獅子ヶ丘自治会、生駒市体育協会と協議を行い、来園してもらいやすい環境づくりに取り組んでいる。また、トレイルランイベントを積極的に受け入れてきたため、開催の問い合わせが増えてきており、イベント主催者に開催日の増加についても呼びかけている。</p>	A	<p>履行確認の結果、事業計画を上回る取組みや多数の事業を実施したことが認められ、評価できる。</p> <p>①くろんど園地では水道利用を停止しているが、物品の販売、ほしだ園地から手洗い用の水を運搬するなど、運営維持に努めている。</p> <p>①なるかわ園地に続き、ほしだ園地でもナイトマーケットを開催し、多数の来園者でにぎわい、園地の新たな可能性を見出した事業として評価できる。</p> <p>②音声ガイドシステム「SARF」は、代替事業の検討や別事業に力を入れてにぎわいの創造に努められたい。</p> <p>②星のブランコイルミネーションは、電飾を増設して実施し、Instagramの活用などの効果もあり、昨年度より来園者が大幅に増え、施設のにぎわい創造に貢献している。</p>	S	<p>くろんど園地の水道利用停止について、府と協議して、適切に対応されたい。</p>

	(8) 府施策との整合	① 行政の福祉化、就職困難者の雇用・就労 ② 府事業、その他公益事業への協力	行政の福祉化に関する取組がなされたか。 ① 就職困難者の雇用・就労状況 府・公益事業への協力がなされたか。 ① 府事業への協力状況 ② 公益事業への協力状況	大阪府内の支援施設、事業所と連携して雇用実現に向けて調整し、7月に1名を雇用した。 ① 生駒山系花屏風景観活動・全国豊かな海づくり大会・大阪関西万博広報に協力した。生駒山麓ウォークの広報、当日にパンの販売を実施した。大阪府と包括連携協定を締結しているアース製菓による虫ケアステーションを継続設置した。 ② 交野おりひめの里特産市に広報出店した。NEXCO 西日本 お国自慢デジタルラリー2025 に参画した(6/25～11/30)。	A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
					A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
II さらなるサービスの向上に関する事項	(1) 利用者満足度調査等	アンケート結果を把握し、運営に反映していたか。 ① 利用者の満足度調査・アンケート等の結果、対応策の分析、対応状況	紙によるアンケートに加えて、LINE によるアンケートを継続して実施した。利用者の要望等を随時把握し、園地の管理・整備に反映した。特に利用者から声の多い駐車場 24 時間化について、昨年度のなるかわ園地につき、今年度はほしだ園地において7月1日から実現した。		A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	国内旅行者がどこから来たか詳しく把握してはどうか。 インバウンドに対し、どこの国から来たか把握してはどうか。
	(2) その他創意工夫等	その他のサービス向上につながる創意工夫がなされたか。 ① I - (5) 以外のサービス向上につながる取組み、創意工夫の実施状況 ② 協働事業（新規の団体等との協働） ③ 参加・参画機会の確保 ④ 状況に応じた柔軟な開園時間の延長（開園時間は年間を通じて午前9時から午後5時が基本）	① ほしだ園地に暖炉を設置し、冬季の寒い時期にピトンの小屋内を温かく保ち、利用者に快適な空間を提供するとともに、園内で伐採した樹木から薪を作り、有効活用するという自然循環システムの活用を12月から開始した。また、年間を通してキッチンカーを多く出店し、星のブランコイルミネーション等の夜間イベント時にはキッチンカーも夜間営業するなど、サービス向上に努めた。 ②③ 東大阪市内で地域活性に取り組まれている事業者(RAYS GARAGE)と連携し、なるかわ園地で「ナイトガレージマーケット」に加え、ほしだ園地でナイトマーケット「ほしともし」を新たに開催した。 ④ イベント開催時にあつては、営業時間の延長を柔軟に対応し、利用者の満足度向上に取り組んだ。		A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
III 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	① 当初見込んでいた収入は得られていたか。 ② 事業計画や前年度実績等と当年度実績とを比較、分析した結果はどうか。 ③ 自主事業の事例を調査し、取組可能な事例について導入を試みていたか。 ④ 経費は当初見込んだ範囲内で収まっていたか。 ⑤ 当初提案時の支出計画書や事業計画等と実績とを比較、分析した結果はどうか。	① 全体的には夏の猛暑、週末の天候不良などの影響もあったが、紅葉シーズンや自主事業の「星のブランコイルミネーション」が好評で、増収となる見込みである。 施設利用収入 2,190 千円（前期 2,254 千円 前期比 97%） 物販等収入 9,814 千円（前期 5,252 千円 前期比 187%） 駐車場収入 8,981 千円（前期 8,895 千円 前期比 101%） 総収入 26,828 千円（前期 19,986 千円 前期比 134%） 入園者数 723,405 人（前期 735,697 人 前期比 98%） ※11 月末実績 ② 園地管理、施設整備については計画通り実施を予定している。 ③ 養蜂事業については、良好な採蜜環境の維持のため、巣箱の設置場所を検討し、ほしだ園地に集中して設置することを検討している。来年度も多くの採蜜を期待し、販路の拡大だけでなく、環境教育の実施にもつなげたい。また、ほしだのはちみつは交野ブランド「カタノのチカラ」としても登録された。 ④ 光熱費や人件費の高騰により当初計画よりも増額の予定で、今年度においても、他の経費を圧縮することで総額として計画内に収める努力をしている。 ⑤ 収支について、収入は前期より増額が見込めるものの、各園地における管理作業における費用が、長引く資材高騰等による物価上昇の影響により増額となっており、計画よりも減収となる見込み。		A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
	(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	① 職員体制・配置は十分か。 ② 職員採用、確保の方策は適切か（継続雇用等の観点）。 ③ 職員の指導育成、研修体制は十分か。	① 統括所長のもと、各園地に所長を配置し現地運営の対応をしている。 ② 現地運営に必要な人員を、年間を通して適切に雇用を維持している。 ③ 定期的に大阪府・中部事務所との定例会、1回/月の園地責任者での定例会の実施により安全で安定的な運営を実施している。 指導育成や研修体制としては、消防訓練、安全衛生に関する勉強会への受講参加、資格取得の推進など行った。		A	履行確認の結果、事業計画書に示した取組みが実施されており、評価できる。	A	
	(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	① 運営基盤として、提案事業者の経営、事業、組織規模等は十分か。 ② 運営基盤として、提案事業者の財務状況は妥当か。	住友林業グループとして業績も上がっており、2024 年度は 2 兆 537 億円の売上で安定した経営状況であるため問題無し。			A	履行確認の結果、安定した財政基盤があり、指定管理業務の受託に問題はない。	A

年度評価：A